

学校教育目標 「ふるさとに誇りをもち、知性と社会性を身につけた子どもの育成」
令和7年度重点目標 「自分の考えを自信を持って表現できる生徒の育成」



1948年12月10日に国連で「世界人権宣言」が採択されたことを記念し、日本では毎年12月4日から12月10日までの1週間を人権週間としています。

これにちなみ、本校でも人権学習を行いました。

1年生	2年生	3年生
いじめていい理由なんてない	技の担い手たち	統一応募用紙 (公正な就職応募用紙)
みんなの人権が尊重され、誰もが安心して過ごせる学校(学級)になるために、自分にできることを考えました。	差別を受けながらも、芸能や庭園造りに優れた技術を発揮した人々の素晴らしさを学びました。	社用紙(※)の問題点を考え、おかしいことを「おかしい」と発信することの大切さを考えました。 ※かつて、企業が採用選考時に独自に作成していた応募書類

授業を受けたあとの生徒の感想

- 人によって感じ方や考え方は違うため、自分が話すことには責任をもって、日ごろから誰も傷つかない言葉をつきたい。傷つくことを言われている人がいたら、見て見ぬふりをするのではなく、味方になりたい。(1年生)
- もしも私がこの時代にいたとしたら、みんなと同じように差別をしていたかもしれない。時代は変わっているようで、あまり変わっていないのかもしれませんが。今も、いじめやLGBTQIA+などがあります。これからは、自分の気持ち、相手の気持ちを大事にしていきたいです。そのためにみんな同じ人間同士助け合いながら生きているのかなと思います。(2年生)
- 昔使われていた社用紙には、本籍地や家族の状況など、採用に関係のない項目があったと初めて知りました。入試の場で、自分の能力や適性に関係ないこと、自分の努力ではどうしようもないことを問われる質問には、はっきり「答えることができません」と伝えることが大事だと思います。(3年生)



校内の人権コーナー

ある研修会でのことばを紹介します。

「差別意識(偏見)」は誰もが持ってしまう意識です。持ってしまった(持ってしまうかもしれない)「差別意識(偏見)」に気づき、正していける「力」をどのようにつけていくかが大切です。この「気づく力」「是正する力」が人権感覚と考えます。

ちょっと心をかしてくれないませんか？

11月14日(金) PTA親子講演会

講師の方に、お話と歌を織り交ぜながら、自らの部落差別の実体験を語っていただきました。きれいごとではない差別の現実と生活のなかから紡がれた歌詞とお話が、生徒の心にストレートに響いたようです。講演後の生徒の感想文も、すばいにたくさんのかばで書かれていました。



生徒も借り出され(笑)

生徒の感想より

○私は今日の講演会では、最初から最後まで驚きが隠せませんでした。「人権とは」という問いでは、「君たちの言う人権は知識であって体験ではない」と生々しくて本当のことを言われ、今までの自分が恥ずかしくなりました。「読み書きができない」という話では、人間のおろかさとしさが身にしみて涙がでてきました。本物の体験をしてきた人の話は、これまでの人権学習とは違い、とても身にしみました。

保護者の感想より

○人権学習をたくさん受けてきましたが、今回この歳で改めて気づかされることがあることに驚きました。実体験をもとにつくられた歌は歌詞のひとつひとつが心に響くものばかりでした。講演の内容を家族に伝え、人権について考える機会にしたいです。

○部落差別について話を聞いたときに「こんなに怖い話はない、こんなことは起きてはいけない」と思います。どんな差別も間違っていることはわかっている、なくしていかなければならない。でも自分は差別されたくない。この繰り返しを切っていけないといけないと思います。そのためには「おかしい」を知ることが必要だと思いました。

八女市人権ポスターに出品した本校生徒の作品

(ゆめタウンや支所に展示されました)

